

# KSKR

No. 184

2013  
Sep.

9

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

奈良県自閉症協会 NEWS

# きずな

The Kizuna

発行人：  
関西障害者定期刊行物協会  
編集人：奈良県自閉症協会  
支部長&事務局：河村舟二  
〒639-1005  
大和郡山市矢田山町 84-10  
購読料1部 100円  
会員は会費に含まれています。

forMem.

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

## 生

きるカマインドスキル  
2013年8月13日、北  
京大学第六医院で行われ  
た自閉症教育の特別研究協議会に奈  
良県自閉症協会から河村が参加して  
きました。その概要を皆様に報告し  
たいと思います。今回はそのときの  
宇都宮大学の梅永先生の講演内容か  
ら披露したいと思います。

ノースカロライナに友人の自閉症  
の青年がいます。J君は未熟児で生  
まれました。自傷行為が非常に激し  
く、目玉をくりぬくような強度の行  
動障害。近寄ると殴られたり噛みつ  
かれる他害行動。土・虫・排泄物な  
どを口にする異食。24時間寝ない。  
などで、お母さんはへとへとに疲  
れ、湖で自殺したいという程であり  
ました。しかし現在、自立して仕事  
しているのです。当然、重度なので  
言葉は無いし、全てができるわけ  
ではないが、重たい自閉症でも地域で  
生活し働いたり、余暇を楽しんだり  
している。こういうプログラムのこ  
とをTEACCH(※1参照)といいます。  
という講演の出だしで始まり、最新  
のJ君の今の落ち着いた様子のビデ  
オを見せていただきました。  
生きる力(マインドスキル)を中心  
に梅永先生はABA(応用行動分析)  
の勉強もされました。大学を出て就  
労支援の現場に15年従事されまし  
た。この就労支援していた頃、我が

国では知的障害を伴う自閉症の人就  
職率は6パーセントであったが、あ  
る論文でアメリカ・ノースカロライ  
ナでは95パーセントが地域で自立  
し、7割が働いていると書いてあっ  
たそうです。嘘だろうと思って21  
年前、佐々木正美先生のツアーで初  
めてノースカロライナに行かれたそ  
うです。その後、何度か行ったが、  
勉強不足を感じ2006年には留学さ  
れました。その後、年に1回から2  
回は必ずノースカロライナを訪れ、

## 生きるカマインドスキル

最新の情報を集めておられます。今  
回はノースカロライナから直接北京  
に入られ、今時差ぼけだとおっしゃ  
る梅永先生から貴重な最新の映像情  
報を披露していただきました。

TEACHとは自閉症と関連するコ  
ミュニケーション障害児の治療と  
教育の言葉をつなげたものです。  
TEACCHはエリックショプラー先生  
が40年前に始めました。最初は  
「子どもの研究プロジェクト」とい  
う名前で自閉症に取り組みました。  
専門家といっても子どもがわからな  
いので、保護者から情報を集めまし  
た。アメリカにも自閉症支援がな  
かったので、州の予算でTEACCHと  
いう言葉を使って立ち上げたのが6  
年後。そこで、一番協力したのが親

の会です。ですから、自閉症親の会  
と州の議会と大学と協力してできた  
団体のことをTHEACGHとよびます。  
TEACGHはプログラムであるから  
TEACGH療法とかTEACGH法はありま  
せん。ABA(応用行動分析)・大田ス  
テージなどの方法論があるわけでは  
ありません。今から40年程前はア  
メリカも自閉症の支援に悩んでいま  
した。その時はお母さんが原因じゃ  
ないかといわれていました。育て方  
が悪いと思われていました。でも、  
なんか親の責任ではないんじゃない  
かとも思ったそうです。なぜなら、  
同じ育て方をした兄弟はノーマルだ  
からです。同じ年代の仲間であるリ  
ムランド先生、ローナ・ウイング、  
マイケル・ラターらが集まって同じ  
疑問を抱きました。映画レインマン  
は、モデルの一人がバーナード・リ  
ムランドさんの息子です。自閉症協  
会初代会長さんで、臨床心理心理學  
者です。ローナー・ウイング博士は  
精神科医で娘さんが自閉症です。マ  
イケルラターはイギリスのモズレー  
病院の精神科医でした。みんな「母  
親が原因ではない」と言い出しまし  
た。たぶん脳の問題だと言い出しま  
した。自閉症者は言葉が理解できな  
いし、異なった状況から情報から情  
報を統合できないし、感覚が独特。  
しかし視覚的な刺激には強いです。  
実は、「冰山モデル」ということ

実は、「冰山モデル」ということを TEACCH ではよく使います。自閉症の問題行動というとき、我々は自閉症の問題行動の氷山の一角しか見えていないのであって、海の下にはいっぱいその原因があります。そこで導き出された結論が「自閉症の自立を支援する」ということです。そのために「構造化」という方法を使います。そのときに、視覚的な刺激に強い「視覚的な能力」を使います。TEACCH は 2 つの攻略を目指しました。一つは、「自閉症は治りません。しかしスキルを身につけさせることはできます」ということです。そのためには、自閉症を変えるのではなく、自閉症の人が自立しやすいように環境を変えることはできるとの考え方をします。ただし、まだ我が国をはじめ自閉症は治るとか治そうとする人が少なからずいるのも事実です。

い」ということです。ジェネラリストの反対はスペシャリスト(揶揄する意味で専門馬鹿と訳す)です。医者は医療だけ、教師は学校の教育だけという見方だけではだめです。自閉症の人の生涯の自立生活化を考えて、「医療」は「教育」は「福祉」はどういう関わりをしていくかという発想です。治療教育というのは自立を促進することが基本です。言葉のない人に言葉を教えるのではなく、『コミュニケーションスキル』を高めるという発想です。自傷とか他害とか、噛みつき、髪の毛を引っ張る、つばを吐くなど不適切な行動は減少させます。自閉症を治すというのではなく、『社会的なスキルを高める』ということ、つまり自閉症のままでも幸せになるということです。一番の目的は親亡き後、大人になって自閉症は幸せにならなければならないのです。いくつか中核とな

TEACCH では自閉症を治すのではなく、『地域で自立して生活すること』を目指しています。そのためには、きちんとした自閉症という「診断」とどういった支援をしたらいいかという「アセスメント」が大切であります。

保護者を仲間として協力します。共同治療者としてやっていくとなると、親御さんの能力を高めなければなりません。保護者・親のスキルを高めるのがペアレントトレーニングというものです。日本では先生と親がよく言い争うことがあり、モンスターペアレント、ディフィカルトペアレントと言われていました。しかし、アメリカでは関係者すべてに問題を正しく認識してもらい、親と一緒にやるため、この言葉自体がありません。先生と親御さんが同じ価値観で係わるからです。我々は 7 つの原則(※2 参照)を作りました。自閉症

る信念があります。まず 1 番目は、自閉症は我々とは違うが、まずは違うことは悪いこととは考えないので、学校の教員やジョブコーチは自閉症と一般人との通訳のような仕事をやると考えます。つまり、自閉症の人を変えるのではなく、尊敬の念をもち、共に暮らしていこうという考えです。中核となる信念の 2 番目は、自閉症のことを知っているのは親御さんです。必ず保護者・親とともに係わっていきます。自閉症のことを一番よく知っているのは親であるので、必ず保護者と一緒に係わるのです。中核となる信念の 3 番目は、ジェネラリストとして子どもの生活全般に目を向けることです。ですから、自閉症の支援をする専門家同士は必ず、コラボレーション(連携)が必要です。小さい時は正しく診断する医者が必要です。幼稚園とか療育とか看護も必要です。学校に

を治すのではなく適応力をたかめていく。親を共同指導者にする。きちんとした自閉症であるという診断に基づいて自閉症に特化した指導を行う。そのさい『構造化』という指導をします。自閉症の障害をそのまま受け入れます。自閉症のまま生きていく。自閉症の障害をそのまま受け入れるのであり、自閉症のままでも生きるのです。自閉症を悪いこと障害とは考えません。自閉症には自閉症の文化があると考えます。特に自閉症はコミュニケーションに問題があります。いろんな方法論を取り入れます。「行動分析」も当然取り入れます。さらに「認知論」も取り入れます。つまり、色がわかるか、形がわかるか、表現がわかるかなどです。知能検査もその一つです。ここで一番の目的は、我々教師と医者とか施設職員とか自閉症に係わる人は「ジェネラリストでなければならな

行く頃になると、当然、教育は学校の教師です。でも、教師は家庭に向いて家庭支援もしなければなりません。大人になったら就労支援もやります。つまり、自分の専門以外のことを知る「ジェネラリスト」の形で、当然、自閉症をよく知るというこのなのです。そのためには、きちんとした『診断』と『アセスメント』ができなければなりません。『構造化』という指導を発展させます。言葉だけでなく言葉を含めたコミュニケーション全般のスキルを発展させます。社会的スキル・余暇も発展させます。家族と一緒に働きかけます。中核となる信念の 4 番目は、『個別』ということです。先日 PECS(※3 参照)を開発したアンドリュー・ボンディが、宇都宮に遊びに来て、一緒に食事をしたとき質問されました。「なぜ日本の特別支援学校ではあのように一緒に昼ご飯を食べる

の」「大人になったらあんなことは無いでしょう。なんで、大人になって必要なことを学校で教えないの」と言われました。つまり集団、集団、集団でおこなう教育は自閉症にとって一番苦痛なのです。学校に行くとは遠足があります。運動会があります。音楽と一緒に楽器演奏などすることがあります。これらは自閉症児への虐待なのです。なぜなら、いやなことを無理にさせているからです。そういうことは個別に対応していかなければならないというのです。この自閉症の子には行動療法を、この子には認知療法をというように、いろんな方法、教育を組み合わせさせてやっに行かなければならないのです。ただ構造化ということを中心に指導しています。

構造化を説明します。ABC分析(※4参照)という行動分析の基本があります。何らかの行動を行う前段階

として手がかりがあります。行動をすれば結果が出てくるのです。たとえば手がかりで行動を行った後に、ほめられたり、しかられたり、注意されたりすることがあるかもしれません。障害児に限らずみんなそうやって育てられたでしょう。勉強するという行動をしてほめられたら、もっと勉強します。いたずらするという行動でしかられたら、行動を減らします。たとえばデパートに行っておもちゃ売り場に出たときに、だいたいの子どもは「買って買って」と泣き叫ぶかもしれません。お父さんお母さんは買ってあげたり、お金がないから無視したり、「うるさい」としかるかもしれません。買ってあげれば、そのとき一瞬、泣き叫びは収まりますが、毎回泣き叫べば買ってもらえると思うでしょう。無視されたり、しかられたりしたら、一時、泣き叫ぶかもしれませんが、続いて

いくと、いくら泣き叫んでも買ってもらえないと分かり、この行動は減るかもしれません。このように結果を操作して、行動を変えること方法は昔からよくオペラントという方法でおこなわれました。このABC分析はTEACCHでも考えに出されます。たとえば、道路を渡るとき、車が来るので左右確認します。そして道路を渡るとします。無事に渡れる。あるいは車にひかれそうになることがある。どこら辺の距離だったら無事に渡れる。どこら辺の距離だったらひかれそうになるかは難しい。しかし、ここで無事に渡るために信号というものがあれば無事に渡れます。何らかの活動をするとき「先行刺激を分かりやすくする」ことが構造化というものです。町で新聞はココ、ペットボトルはココ、などゴミ箱に分けているのも、すばらしい構造化のアイデアです。我々がゴミを捨て

るとき、こういう風に捨てればいいんだよということを示してくれるからです。私はこれまで自閉症の人の就労支援を1500人分やってきました。残念ながら3分の2の人は就職できていません。しかし残りの3分の1の知的に重たい、言葉のでない自閉症の人も就職しています。この三割は大きい。自閉症協会の調査では6パーセントしか就職できていなかったわけであるから、これから見ると5倍の就職率というすばらしい成果です。私は自閉症を変えようとしていません。日本の会社620社を回りました。会社の仕事を見て構造化のアイデアをどんどん取り入れています。〈例1〉映像で栃木県の会社自動車のバンパーの中に入っているクッション材を作る会社の例が示されました。入れる袋がいくつかあり、そこには難しい言葉がかいてある。多くの自閉症が知的障害を

伴っているためこれは読めません。では、仕事ができ無いかというと、そうではなく、できるように我々が指導すればいいのです。すなわち、袋の表示をバラ・帽子、スイカ・イチゴなどに変えて、難しいことはわからなくても、A君イチゴ5枚持ってきてBさんスイカ3枚持ってきてできるようにになっています。〈例2〉ある会社の機会では幅を計るのにノギスを使っています。読み方が難しいので工場長と構造化しました。C君は言葉の話せない重い自閉症ですが幅を計ってきちんと仕事をしています。これで彼は10万円の給料をもらえるようになりました。以前は作業所では3000円の工賃でした。つまり、知的に重たいから仕事ができないのではなく、支援者が下手だったのです。〈例3〉アスペルガー症候群の女性は40カ所の職場を解雇されました。刺激に敏感

なのです。こういう支援をしました。眼鏡を与えました。しかしこれはただの眼鏡ではない、アレーレンズサングラスというもので、蛍光灯のちらつきが見えてしまうのを防ぐことができるものです。彼女には、我々にとっては、切れかかった蛍光灯を見ているようで、それで仕事に集中できなかったのです。見え方が違うようであれば見え方を構造化すればいいのです。〈例4〉また音に敏感な人がいて、音がすると、すぐ人を叩きにいく人がありました。この人にはノイズキャンセラーを与え構造化しました。彼はこれで小さい子を叩きに行くことはなくなりました。今は仕事をちゃんとしています。

つまりこういう構造化という本人を変えるのではなく、本人が自立して活動するための環境を変える理由がいくつかあります。それは、自閉症の子どもでも大人でも、「やるこ

とを理解しやすくなるため」です。それから、「自閉症独特のやり方に合わせる」ことができます。その結果不安が軽減されて学習能力が高まります。つまり、自立心を促進することができます。つまり、適切な行動をとることができるのです。以下、写真を使った例が示されました。視覚的な刺激を遮断する構造化の例。他動的な行動を制限する構造化の例。たとえばスーパーマーケットに連れて行った自閉症の子どもは突然走り出すことがある。それは当然であり、入ってくる視覚的刺激があるため、スーパーに連れて行くことは走り回りなさいということをおかしているのと同じである。それでおとなしくしなさいというのをおかしい。おなかぺこぺこの人の前にステーキを出して、食べてはいけないというのと同じである。私は視覚的に敏感な自閉症の人をスーパーに連

れて行くことは走り回りなさいと教えていると思います。それが分かるから視覚にそういった刺激が入ってこないように壁に向かって座ることが落ち着くのです。この子は全く言葉のない自閉症ですが視覚的に座るとかシィおとなしくする、活動するのはこれで分かって活動していません。これがなければ、何をしていたのか分からないので走り回っています。この子も人が歩くと刺激が敏感で集中できないので、手作りのパーテーションを置くと集中して勉強します。テーブルを拭く手順を123で教える1番をとってマジックテープでくっつける?で洗剤をつけるなどスケジュールを認識する例。自分のスケジュールを見ることがわかるのです。シャワーを浴びた後、服を着る順番が分からない自閉症の人に、左から右の構造化でパンツズボンと衣服の着脱ができるよう

になった例。つまり「子どもが衣服の着脱が出来ないのではなく、衣服の着脱出来るように指導していなかったのであり、我々が悪いのである」。自閉症の子は出来ないときに、お父さん・お母さん・学校の先生にいつも怒られます。でも、怒ったとしてもその子が出来るようになりますか。怒られて、怒られてが積み重なると必ず、家庭内暴力などにつながる二次障害になることがある。最近よく講演に呼ばれるのが少年院だが、その子が出来るように教えてあげたら自立していつて自尊心が高まっていきます。絶対、怒って子どもを治そうとしても治りません。テーブルに食器を置くことができなかつた子がランチマットを置くという構造化で出来るようになった例。日本のディズニーランドで働いている重い自閉症の人がレストランのナプキンを写真による例示に従っ

て、たたんでフォーク等を置くことが出来ます。「何かの活動を行う前に活動を行いやすいように示すことが構造化です」この教室も構造化されていますが分かりますか。非常口が示されています。災害時に我々が行動しやすいように視覚的な構造化されているすばらしい例です。この自閉症児は自分のロッカーが分からない。字が読めないからです。色は分かるので、自分のロッカーは赤にするという構造化でわかる例。パソコンゲームが好きで、いつまでもやってやってしまい、やめられない子がいました。無理にやめさせるとパニックになっていたが、「今のコンピュータは店じまい」の札を貼るといだけの構造化でパニックが止まった例。「分からないのか・出来ないのか、したくないのかをきちんと我々側が知らないと誤った変な行動をさせてしまうことになる」幼

稚園でのパーテーションの例。よく観察するとパニックを起こす原因がビデオを見たかったことにある。常にロッキングし、うなり声を上げる中学生の子が英語と数学を自主的に学習し出すパーテーションの例。字が読めるのでスケジュールに線を引くことで、時系列が理解できるようになった高校生の時間の構造化の例。われわれもいつこの梅永の講演が終わるか分かっているのでパニックにならないのである。赤いテープで掃除ができるようになり老人ホームで清掃の仕事が出来る例。居住支援としどの服を着るかで、暑くなったらこの服を着るとい活動についての構造化の例。ひげを剃る方法を写真を使い右の頬左の頬と構造化した例。体を洗うのを絵で示す構造化等が映像を使って示されました。人によって字が読めれば字、読めなければ絵によって活動を示してや

れば自立して支援が無くても自主的に活動が出来ます。このように、やることがわかれば混乱することがなくなりパニックは生じなくなるのです。私は「海洋天童」という映画が好きです。つまり TEACCH で考えている「生きる力」を全部教えているからです。涙を流しながら見ました。私がかつて就労支援で掃除を教える時に、自閉症の子が箒を持って前に行くので、「後ろに行くのだぞ」と怒ったことがあります。ジェットリも同じことをやっていました。その時は、自閉症の子が分からないということが、私自身分かっていなかったのです。TEACCH とは何かを説明するたとえ話をします。平均台というものを渡らそうとするときに、平均台に乗っているのが自閉症の子で、指さしているのが親御さんや教師で

す。

「足元を見て渡りなさい。そうすれば、落ちないでわたれるよ」を遊戯療法とします。「いや、違うよ、まっすぐ前を見て渡った方が渡れるんだよ」を行動療法としましょう。

「いや、違う違う。手を広げてバランスとって渡ると渡りやすいんだよ」を感覚統合としましょう。

みんな一理あり正しいと思います。でも我々は「平均台の幅を広げればいいんじゃないか」これがTEACCHの考えです。自閉症を無理に変えようとしない。自閉症のまま生きていけるように自閉症の生きやすい環境を作ってあげる。これがTEACCHの考えであると梅永先生は締めくくられました。(河村) (参照)

※1 TEACCH (ティーチ) とは、Treatment and Education of Autistic and related

化しない。自閉症の治療者は自分たちの専門分野だけでなく、自閉症の子どもをとりまく全ての側面や問題について理解しておく必要があるジェネラリストであるべきとの考えから)

※3 PECS (Picture Exchange Communication System) とは、絵カード交換式コミュニケーションシステムのことで、自閉症やその他のコミュニケーション障害の子どもや成人の人に、コミュニケーションを自発するように教えるための絵カードを使った代替コミュニケーション方法のことです。奈良県自閉症協会です。これまで何度か学習会を持ちました。

※4 ABC 分析とは、問題解決に役立つ行動に関して、なぜ行動が少ないのか・多いのか、どうすれば行動を

Communication-handicapped Children (自閉症とその関連する領域にあるコミュニケーション障がいの子どものための治療と教育プログラム) の略です。奈良ではスキップ教室でTEACCHの学習を行っています。詳しくは上島さん田中さんに連絡してください。

※2 TEACCH プログラム7つの原則

第1原則…子どもの適応能力を向上させる(これには2つの方法がある)。

①子ども自身の適応能力を向上させる。

②子どもをとりまく環境を整えて、子どもの欠陥を補っていく。

第2原則…両親が共同治療者として協力する。親のニード(求めるもの)に耳を傾け、プログラムに生かす。

第3原則…子どもの教育プログラム

増やしたり、減らしたりできるのかを分析するための手法である。

人間の行動は、A(先行刺激)、B(行動)、C(結果)という3つの要素から成り立ち、子どもがB(行動)をしたときに、C(結果)が子どもにとって良いものであればその行動は強化され増え、嫌なものであればその行動は減少します。D.T.T.(ディスクリート・トライアル・トレーニング)では、AとCの部分を変化させることによって、不適応行動を望ましい行動へと変えていく手法です。

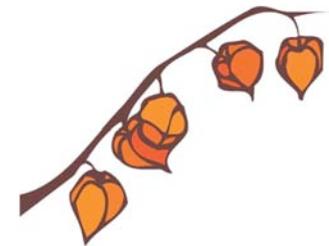
は、評価と診断に基づいた個別的なものでなくてはならない。→PEPなどのテスト結果、インフォーマルな日常の行動観察の評価が参考にされる。

第4原則…構造化された教育(structured teaching)を行なうこと。

第5原則…子どもの欠陥を正確に認識する。このような認識の上にとって、子どもの適応を向上させていく姿勢が必要である。

第6原則…認知理論と行動理論を組み合わせて使っていく。これは精神分析的な理論が、自閉症の理解や治療教育に役に立たなかったという事実の反省の上になっている。

第7原則…療育にかかわる専門家はジェネラリストでなければならぬ。(TEACCHでは自閉症にかかわる専門家を行動療法家とか言語療法士とか作業療法士といったように細分



# 特別な支援が必要な子供たちへ

## 新庄小学校での取り組み

はじめまして、息子は地域の特別支援学級に通う5年生です。かなりの感覚過敏を持っています。自閉症協会に入会させてもらったのは3歳の時で、診断を受け、どうしよう？と悩んでいた時でした。

会の集まり等に参加して、先輩お母さん方のお話や経験談、励ましやアドバイスで救われたことも多く、また成長段階で出てくる悩みも親子共々相談にのって頂いています。

これからも 会員どうし、悩みやお話を聞いて頂けたらとよろしく願いいたします。

今回紹介させて頂きたいのは、息子が通っている葛城市立新庄小学校特別支援学級の合同学習会です。感覚統合等を取り入れた、様々な体験を

通した内容で、先生方には毎日の授業や行事の中、準備など大変な取り組みだったと思いますが、全先生方の工夫とご協力によって、実践してもらえた事を何よりも嬉しく思います。

普段なら「失敗したらどうしよう・・・出来なかったらどうしよう・・・」と前に踏む出せない場面も多い子供たちが、この学習では活き活きと楽しんでやっていました。息子も3歳から入学までは、リハビリセンターで感覚統合訓練を受けていましたが、小学校に上がると療育、訓練が受けづらくなる現状があります。早期療育とその継続の大切さを痛感していましたので、このような取り組みで、子供たちの普段は見ることができない姿を目にすることができ、大変感謝しております。

見た目では分かりづらい、不器用さや、生きにくさを持った子供たちの、

一人一人のその時に合った、成長の一步となります様、このような活動をされる学校が増え、支援の環境が広がっていく事を願っております。杉澤校長先生と特別支援学級担任、大嶋先生、木村先生、榊井先生、林先生、池田先生、西川先生に「感覚統合訓練による学習について」具体的な内容をお伺いしています。



\*\*\*\*\*

**新** 庄小学校の特別支援教育の目標を「一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。」としています。全教

職員がこの目標に向けて、あらゆる学習活動の中で、特別な支援が必要な子どもたちに様々な声かけや配慮、工夫をおこなっています。できるだけ支援することなしに「みんなと学習できるように。」「みんなといっしょに遊べるように。」「たくさんの友たちと関われるように。」と取り組んでいます。

本校の特別支援学級の児童は23名（昨年度は16名）です。

それぞれに様々な困り感をもった子どもたちへの支援として、基礎・基本の学習と並行して週3時間の合同学習で感覚統合訓練やソーシャルスキルトレーニングに近い学習を取り入れています。ここでは、一昨年度より取り組んでいる音楽と運動を合わせた「みんなで楽しく運動しよう」の学習を紹介させていただきます。

活動のプログラムは、①みんなで歌う②リズムに合わせて動く③サー

キット運動の三つです。毎回同じ流れで進めていきます。

### ①みんなで歌う

みんなで「野に咲く花のように」の歌を、体を動かせたりしながら楽しく大きな声で歌っています。みんなで活動する時は、必ず歌って初めの雰囲気づくりをしています。



### ②リズムに合わせて

活動でのウォーミングアップとともにリズムに合わせて自分の身体をコントロールできるようにという目的で取り組んでいます。和太鼓のリズムに合わせて、歩いたり、走ったりします。音が止まると動きを止めたり、ゆっくり動いたり、速く動い

たりする動きに、子どもたちは、初めは戸惑ったものの繰り返すことで、リズムをよく聞くことや、次はどんな動きかなと考えることができるようになってきました。また、和太鼓を叩く二人は、みんなの動きを見ながらリズムを考えることもできるようになり、回を重ねるごとに自信をもって取り組む姿を見ることができました。



### ③サーキット運動

高いところへのぼる、細い所を歩く、跳ぶ、まわる、ボールを投げるなど普段なかなかできない動きを、跳び箱、平均台、マット、トンネルなど多様な用具を使って、いろんな身体の動きを体験し、慣れるととも

に「体を動かすことが楽しい」と思えるように取り組んできました。

子どもたちが平均台の上を歩く、フラフープをケンパで進む、トンネルをくぐる、玉を投げる、跳び箱にのぼる、おりの運動をしている様子をビデオに撮り、みんなで一人ひとりの動きを見て、「～さんは、こんな動きをしている。やってみよう。」など自分の動きの良いところを認めてもらえる機会もつくりました。

また、「できたね。」「すごいね。」など動きの一つ一つにかける支援の言葉で、自信をもっている色々な動きに挑戦することができ、何より笑顔で楽しく運動する姿を見る事ができました。繰り返しの学習することで子どもたちが見通しをもって活動することもできました。

子どもたちの発達に合わせた課題や適切な支援、そして環境の準備や

工夫で、子どもたちに笑顔やできた喜び、達成感をもたせることができます。「できた」「楽しい」という気持ちは、次へのステップとなります。これからも系統的に授業をつくり、繰り返しながら積み重ねていけるようにしていきたいと思います。



発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：河村 舟二

定 価：100円